

大阪大学図書館報

Vol.32 No.1 June 1998 (平成10年) 通巻129号

目次

- 附属図書館の重要課題と本館新築
- 大阪大学附属図書館データベース検索システム本格稼働開始
- 附属図書館本館の新築について
- お知らせ
 - ・大型コレクションの購入
 - ・雑誌記事索引、CI on CDがオンラインで利用可能に
 - ・吹田分館に留学生用図書入
- 会議・日誌

附属図書館の重要課題と本館新築

— 館長就任の辞 —

西原 浩

まえがき

林前館長の後任として、本年4月1日、館長に就任いたしました。前年度の後半の半年間吹田分館長を務めさせていただきましたが、それ以外は図書館業務について特に勉強する機会がありませんでしたので、いろいろと面食らうことが多くある中で、これからの大阪大学附属図書館はどうあるべきかを思案している毎日です。図書館職員および教官の方々に助けをもらいながら、微力をつくしたいと思っております。

さて、就任早々飛び込んできた話は、永年の悲願であった本館新築が本年度の補正予算で実現するかもしれないということでした。この話

は、補正予算が国会を通過しましたので、いよいよ実現することになりました。本拙文では、館長就任のご挨拶に替えて、図書館を取りまく重要な課題について述べさせていただき、皆様のご理解とご支援を賜りたいと願っています。

1. これからの図書館に求められる多様性

現代社会は高度情報化の時代に入り、それに応じて大学の教育研究に要求される内容が多様化し、大学図書館が提供することの期待されている情報も多様化してきました。冊子体資料に加えて、電子媒体資料やAV資料などいわゆるマルチメディア的資料を整備することが期待さ

れています。また、それらの資料を迅速に検索することのできるシステムなどの多様な機能を備えることも求められています。大学図書館には、学生が電子的端末機器を利用して情報を検索することを通して自主的に学ぶ、キャンパスライフの中心的な場としての機能を強めていくことが求められています。こうして、学生は知識・情報を取り入れる技術を修得し、情報化時代の社会人として、国際人として成長していくことが大切です。

そのような流れの中で、全国の大学において、図書館は情報処理教育センターや大型計算機センターなどの情報関連センターと連携・協力していこうとする動きがあります。本学図書館も従来の資料閲覧型に加えて、新しい電子図書館化機能を積極的に取り入れていかなければならないと考えています。このように、図書館を取り巻く環境が大きく変わりつつあることを全学の教官の方々もご認識いただきたいと思います。

2. 本学附属図書館施設

[現状] 現在の図書館は昭和35年に第1期が建てられ、その後第2期が昭和41年に、第3期が昭和47年に、そして第4期の書庫が昭和56年に建てられたものであり、第1期からは38年、第4期からでも26年になり、老朽化が進んでおりますし、また、平成6年の大水害、平成7年の阪神大震災を経験しました。また、建物床面積は学生数から算定した文部省基準面積の半分しかなく、主要10国立大学の中では最低ランクです。

このため、本学学生は狭い図書館に甘んじるしかなく、試験期になると床に座り込んで勉強しているありさまです。これらの窮状については、これまでの館長は繰り返し訴えてこられました。とくに、林前館長は朝日新聞(1997年7月4日大阪版夕刊)に「悩み多き大学図書館—大阪大学の場合—」と題して投稿されました。「せめて文部省基準並の面積が欲しい」が本学図書館関係者の永年の悲願でした。それが今年

度の補正予算で実現することになったものですから、事態は急に慌ただしくなってきました。

[新館建設] 豊中キャンパスはすでに手狭であり、そこへ地下1階地上6階建、面積約9,300平米の建物を建てるのです。現存の建物面積とほぼ同等の面積です。すでに承認されている豊中キャンパスの長期計画に従うこととなりますが、それによりますと、現在の建物のすぐ北側が建設予定地です。文学部はじめ法経学部の方々にも、ご迷惑をお掛けすることになります。現在の建物の地下1階に生協の学生食堂があり、学生が溢れています。工事中はさらに不便をお掛けすることになります。また、駐車場、駐輪場の問題もあります。また工事中の工事車両のアクセスも安全面から重要な問題です。

現在、全学の図書館委員、その中の新築検討ワーキンググループ委員、図書館職員、施設部の方々は何回かお集まりいただき、設計案についてご検討頂いているところです。

3. 新しい図書館にどのような機能を持たせるべきか

情報化時代にふさわしい図書館を建設するには、先に述べた新しい機能を備えるようにする必要があります。本館新営の基本構想としましては、つぎの7つの機能の重点的整備を柱とした図書館の構築を目指しています。これは、昨年までの図書館委員会で承認されているものです。すなわち

- (1) マルチメディア・ライブラリー機能
- (2) 研究図書館機能
- (3) 共通教育支援機能
- (4) ドキュメント・デリバリー機能
- (5) 計画的な蔵書構築に基づく資料提供機能
- (6) 保存図書館機能
- (7) 開放型図書館機能

です。

このうち、新築に直接関係するのは(1)～(3)です。現在、この3つの機能が反映され

るべく、建物の検討をしています。

(1) は、いわゆる電子図書館機能であり、書籍の検索、ジャーナルのオンラインサービスの構築です。また、マルチメディア・ライブラリの充実化には大型計算機センターのご協力を仰ぐことになっています。(2) は、大学院生および教官の研究支援型体制の構築です。(3) は全学共通教育機構の支援に関することですが、豊中キャンパスには学生数に対する十分な教育施設がなく、とくに「情報処理教育処理演習」は全学生を対象とした講義になったため、講義室および端末台数が不足しています。情報処理教育は図書館の大切な教育の一つであるという認識から、講義室にお貸しすることを図書館委員会でも承認してもらいました。その他、建物の設計にはいろいろな意見をいただいております。たとえば、くつろげる空間としての要望や建物が大阪大学のシンボルとなるような建造物になるようになどの要望です。施設部にはこれから随分お世話になります。

4. 図書館の重要課題

(1) 電子図書館的機能の発展

本学図書館はいち早く平成7年にホームページを開設し、それを通して、蔵書・所在目録のデジタル化、電子ジャーナルのオンライン化、データベースの検索など、電子情報サービスとして、情報の検索ができるようにしてきました。研究室の端末から、新着雑誌の情報、論文のabstractなどの情報が入手できることは、研究者にとっては大変な魅力のほうです。このサービスを拡大することが必要なのですが、それには、経費がいります。電子情報サービス経費を含めた資料購入費として文部省から来る全予算は横這いか、右肩下がりです。したがって、電子情報サービス経費を増やすと、資料購入費が実質減少することになります。予算確保が重大な問題です。

(2) 教育への重要な役割(情報リテラシー教

育)

本学図書館の本館の利用率はどれくらいかは大変興味のあるところです。先日(夏休み前の7月7日)、工学部電気系の1年次の講義中に簡単なアンケートをしてみました。解答者は188名で結果は次のようでした。

【図書館利用の頻度】を尋ねたのに対して、	
「ほとんど毎日」	10.6%
「週に1~2回」	45.2%
「月に1~2回」	36.2%
「利用したことがない」	8.0%

でした。利用率の低いのに驚きました。また、

【利用の主な目的】を複数解答可で尋ねたのに対して、

「図書の閲覧、借用」	55.3%
「持ち込み資料による学習」	43.1%
「端末利用(情報処理演習の宿題、インターネットなど)」	50.4%
「暇つぶし」	26.1%
「その他」	3.2%

でした。これを見ると、「図書の閲覧、借用」と「端末利用」がほぼ同程度であることがわかります。図書館の利用の目的も大きく変わってきていることがわかります。

このような統計を見ると、図書館利用をベースとしたキャンパスライフの重要性を認識させるためにも、図書館利用に関する講義を含む情報処理教育を1年生の全学共通教育機構のカリキュラムに入れることを考えても良いのではないかと思います。京都大学ではすでにそのような科目があり、総合大学のメリットを活かして文系、理工系の教官による情報リテラシーに関する講義がなされています。図書館の学生教育への重要な役割について再度議論することが大切な時期にきていると思います。

(3) 財政難の打開策

先にも述べましたように、文部省からくる図書館経費はここ10年間はほぼ横這いです。しかし、書籍雑誌等の値上がり、外国雑誌の値上

げ、および円安による実質値上げなどで財政的に極めて苦しい状況にあります。また、電子情報サービスを増やすと、それだけ経費がかかり、これまでの資料購入費を圧迫することになります。この問題は、今後続くことを覚悟しなければなりません。このままでは、ジリ貧です。これまで購入していた雑誌が購入できなくなり、新しい学生図書が購入できなくなるようになります。新しい財源を確保する道を開拓しなければなりません。

文部省は教官による科学研究費補助金申請を奨励しています。しかし、残念ながら、本学図書館には教官組織がありませんので、すぐにはできません。図書館にかかわる教官組織が必要です。いずれ、全学的な規模で研究費からの図書費負担額増をお願いしなければならなくなるかもしれません。あるいは、米国の大学図書館でなされている寄付募金にならって、本学も、教官や卒業生からの一時的な寄付、「図書館友の会」的な恒常的な寄付、学外からの寄付などの方法も検討しなければならなくなるかもしれません。

(4) 教官組織の設置

本学図書館には、教官組織がありません。電子図書館化など新しい機能の開発には研究的要素が多くあり、専門知識を持つ教官の協力が必要となってきます。また、科学研究費補助金を申請してくれる教官も必要です。あるいは、上述したような種々の重大な課題を館長を助けて迅速に検討し、図書館委員会に実施案を提案する教官組織の設置が必要ではないかと考えています。

(5) 図書館職員数の不足

本学附属図書館本館の職員数は専任23名、非常勤17名です。この人数は主要8国立大学

の最低ランクです。しかも非常勤の方の割合が非常に高い状況です。そのような状況の中で、学生と教官の教育研究活動のために、本学図書館職員は最善のサービスができるように、みな一致協力して献身的な努力をしておられます。そのうえ、図書館機能の多様化に対応して、常に新しい知識が求められますので普段の勉強が必要になりますが、そのための時間的余裕が十分でないのが実情でしょう。そのうえ、第9次の定員削減がきています。図書館の新館が建ち、面積が倍になるのは嬉しいことですが、職員数はそのままですから、サービスの低下を防ぐためにも、事務の一元化による効率化を考えざるをえません。図書館職員の集中化についてのご理解を是非お願いしたいと思います。

あとがき

以上述べました重要な課題について、いずれ図書館委員会の中に適当な検討小委員会を発足させるなどして、一歩ずつ前進したいと考えています。

就任してから感心させられたことの一つは、本館、吹田分館、生命科学分館の本学図書館職員間の人間関係、ばかりでなく全国の国立他大学図書館職員間の人間関係は非常に親しく強いということです。そして、地域規模、全国規模の会合などがあり、横の連絡をとりながら、種々の課題をとりあげ、学び、討論しておられることです。そのような方々の地道な日常の業務のお蔭で図書館は支えられていることを改めて認識した次第です。

永年の悲願であった本館新築にむけて、現在、図書館側も図書館委員会も急に慌ただしくなり、各方面と連絡を取りながら日々を送っています。実施に関しては、施設部はじめ、全教官のサポートがなくては進みません。全学のご支援をよろしくお願い致します。

(にしはら・ひろし 附属図書館長・工学研究科教授)

○大阪大学附属図書館データベース検索システム本格稼働開始

前号でもお知らせしましたように、附属図書館では平成9年度まで「学術情報検索システム」として試行サービスを行ってまいりました学内LANによるデータベース検索サービスを、本年度より「大阪大学附属図書館データベース検索システム」として本格運用することになりました。

この5月をもって旧システムからの移行期間も終了し、現在では新システムによるIDのみが使用可能になっております。

この検索システムの稼働により、運用・連絡システムも変更されました。「学術情報検索システム」においては、部局単位でユーザーグループを作成いただき、申請・連絡等はこのユーザーグループを通じて行っていただく仕組みでしたが、新しいシステムでは個別の研究室等から直接申請・連絡ができるようになっております。詳しくは図書館のWWWページ「データベース検索システムの利用方法について」(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/gaku03-1.htm>)をごらんください。

また、新規にデータベース検索システムを利用される方は、「データベース検索システムの申請について」(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/syskan/database/sinsei.htm>)を参照の上、所定の申請用紙でお申し込みください。

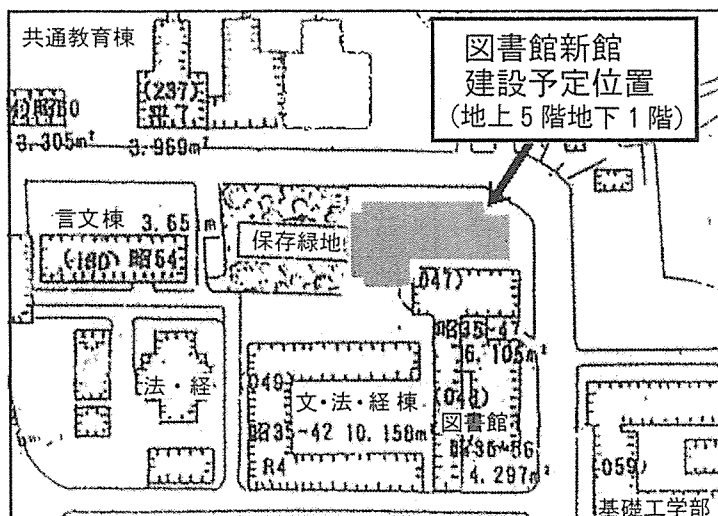
○附属図書館本館の増築について

本号の巻頭記事にも述べられておりますように、平成10年度の補正予算で、附属図書館本館の増築が実現することになりました。

工事の開始時期はまだ未定ですが、工事期間中は本館の北側、西側が工事区画となり（下図参照）、また既設建物の改修も予定されております。工事の状況によっては、本館の一部が使用不能になるほか、一時的に全館休館となることも予想されます。また、改修に伴い資料が移動し、一定期間閲覧座席が減少することも見込まれております。利用者の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

なお、工事日程につきましては、詳細が決まり次第、館内掲示やWWWページにより広報していく予定です。

図書館新館の建設予定位置図



*この図は新館が建設される予定の
だいたいの場所を示したものであり、
詳細な位置、形状等は未定です。

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (1997/Oct.-1998/Feb.) ■■■■■

——本館——

南 徹弘 (人間科学部, 教授)

サルとヒトのエソロジー / 糸魚川直祐, 南徹弘
共編

東京 : 培風館, 1988

原田 裕司 (言語文化部, 助教授)

キリシタン司祭後藤ミゲルのラテン語の詩とその
印刷者税所ミゲルをめぐる / 原田裕司

東京 : 近代文芸社, 1998

ラテン語が教えるもの / 原田裕司

東京 : 近代文芸社, 1998

——生命科学分館——

宮坂 昌之 (医学部, 教授)

標準免疫学 / 谷口克, 宮坂昌之編集

東京 : 医学書院, 1997

武田 玲子 (医学部, 非常勤講師)

環境ホルモンとは何か 1 / 綿貫礼子, 武田玲子,
松崎早苗著

東京 : 藤原書店, 1998

——吹田分館——

山根 壽己 (名誉教授)

金属材料学 / 山根壽己, 村上陽太郎 [ほか]
編

東京 : 朝倉書店, 1994

栖原 敏明 (工学部, 助教授)

光波工学 / 栖原敏明著

東京 : コロナ社, 1998

(光エレクトロニクス教科書シリーズ : 2)

——理学部図書室——

池谷 元伺 (理学部, 教授)

地震の前、なぜ動物は騒ぐのか : 電磁気地震
学の誕生 / 池谷元伺著

東京 : 日本放送出版協会, 1998

——基礎工学部図書室——

東稔 節治 (基礎工学部, 教授)

プロセス設計学入門 / 東稔節治 [ほか] 共著

東京 : 裳華房, 1998

——人間科学部図書室——

菅野 盾樹 (人間科学部, 教授)

いじめ : 学級の間人学, 増補版 / 菅野盾樹著

東京 : 新曜社, 1997

狩野 裕 (人間科学部, 助教授)

AMOS, EQS, LISRELによるグラフィカル多
変量解析 / 狩野裕著

東京 : 現代数学社, 1997

■■■■■ お知らせ ■■■■■

○大型コレクションの購入

附属図書館では平成9年度大型コレクション
として、「言語及び言語教育稀覯書コレクション」
Early Books of Linguistics and Language Teaching
を購入しました。

このコレクションは、1820年代イギリスに設
立された教育分野の専門図書館、Educational
Libraryの核をなすもので、最近までロンドンの
Department of Education が所蔵していた17、18
世紀の図書109点からなります。

コレクションの内容は、イギリスのグラマ
ースクールで使用されていたラテン語、ギリシア
語、英語、フランス語の文法書や辞書、および
言語教育に関する著作で、1659年に発行された
Lilyのラテン語文法書、John Brinsleyの
“Ludus Literarius”(1612)、Comeniusの
“Vestibuli linguarum auctarium”(1664)な
どの貴重な図書が含まれています。

○雑誌記事索引、CI on CDがオンラインで利用可能に

「大阪大学附属図書館データベース検索システム」で、雑誌記事索引とCI on CDの利用が可能になりました。

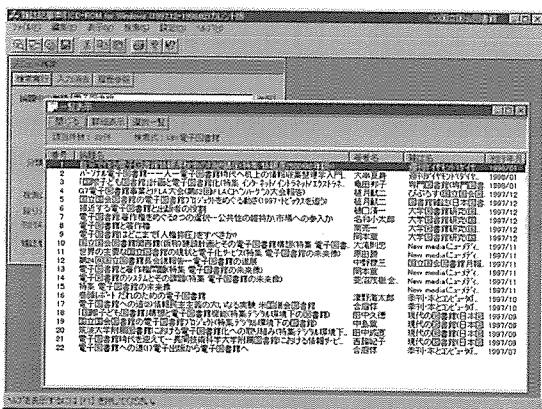
・雑誌記事索引

4月からデータベース検索システムの区分Fで雑誌記事索引を提供しています。従来本館、各分館でスタンドアロンで提供しておりましたカレント版(1990-)が、オンラインで検索可能になったもので、それに加えて、遡及版(1985-89)も検索できるようになっています。

これにより、1985年以後の日本の主要雑誌に掲載された論文・記事を、タイトル、著者名、雑誌名、発行年等から検索できるようになりました。採録誌数は、1995年までが約3,300誌、1996年以降が約5,500誌です。

雑誌記事索引を検索するには専用ソフトのインストールが必要です。詳しくは、下記のWWWページをごらんください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/ntmn-7.htm>



雑誌記事索引の検索画面

・CI on CD

データベース検索システムの区分Bで提供しているChemical Abstracts系データベースに、12th CI on CD及び13th CI on CDが加わりました。

CI on CDは、Chemical Abstractsの累積索引であるCollective IndexをAbstractつきでCD-ROMに収録したもので、12thは1987-1991年、13thは1992-1996年をカバーしています。このCI on CDが利用可能になったことにより、現在提供しているCA on CDカレント版(1997-)と合わせて、1987年以降のChemical Abstractsのデータが、すべてオンラインで検索できるようになりました。

なお、すでにデータベース検索システムの区分Bを申請していただいている方は、同じIDでCI on CDも検索できますが、CA検索ソフトの再インストールが必要です。手順については、下記のWWWページをごらんください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/ntmn-2.htm>

また、これまで本館内でスタンドアロンのCD-ROMデータベースとして提供しておりました、12th CA CIのCD-ROM版(旧版)については、必要がなくなったため、6月末でサービスを終了いたしました。

○留学生用図書が入りました！(吹田分館)

この度、吹田分館留学生用図書コーナーに約100冊の図書が入りました。

内容は、英語で書かれた理工系分野の専門書、各国語で書かれた日本語教材などです。

書名は、吹田分館ホームページ

(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/suita/>)の

「お知らせ」欄で見ることができます。

貸出冊数、貸出期間は一般図書と同じです。

又、留学生用図書の「購入リクエストボックス」も用意しました。

留学生用図書コーナーは、吹田分館旧館2階閲覧室に設置しています。

これらの図書が、大阪大学での留学生生活及び学習に役立つことを願っています。

■■■■ 会 議 ■■■■

豊中地区運営委員会

3. 10 (火) 13:30~14:07

1. 次期豊中地区運営委員会委員長の選出を行い、投票の結果、林 正則委員（文学部）が選出された。
2. 本館の利用に関する諸規程等の一部改正について審議し、原案どおり承認された。

分館長会議

3. 10 (火) 14:30~14:50

1. 図書館委員会の議題整理を行った。
2. 平成10年度事業費の予算要求について審議し、原案どおり承認され、図書館委員会に諮ることになった。
3. 平成11年度新規概算要求事項について審議し、原案どおり承認され、図書館委員会に諮ることになった。
4. 本館の新築（Ⅰ～Ⅲ期計画）については、平成11年度新規概算要求に提出するが、平行して平成10年度の補正予算にも増築（Ⅰ期計画と既存建物改修）を提出することについて協議し、補正予算による要求も行うことになった。

図書館委員会

3. 10 (火) 15:00~16:10

1. 平成10年度事業費の予算要求について審議し、原案どおり承認された。
2. 平成11年度新規概算要求について審議し、原案どおり承認された。

分館長会議

5. 15 (金) 13:30~15:30

1. 附属図書館の将来計画について、当面の課題など意見交換を行った。

■■■■ 日 誌 ■■■■

H10. 3. 2	目録システム地域講習会担当者連絡会議	(学術情報センター)
3.10	豊中地区運営委員会	(本 館)
	分館長会議	(本 館)
	図書館委員会	(本 館)
3.19	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
4.28	近畿地区国立大学図書館協議会	(京都大学)
	近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会	(京都大学)
5.13	本館新築計画事務局ワーキング	(本 館)
5.15	分館長会議	(本 館)
5.21~22	日本医学図書館協議会総会	(自治医科大学)
5.26	国立大学附属図書館事務局課長会議	(東京医科歯科大学)
5.27	国立大学図書館協議会常務理事会	(東京大学)
5.28	国立大学図書館協議会理事会	(東京大学)
5.29	国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会	(学術情報センター)